

研究課題 在宅医の早期参加による在宅緩和医療推進に関する研究
課題番号 H18・がん臨床・一般・003
主任研究者 千葉県がんセンター緩和医療科部長
渡辺 敏

1. 本年度の研究成果

昨年度の研究成果を踏まえ、がん診療専門施設からの緩和医療期患者のスムーズな移行システムが考案され（主任：渡辺）、当施設において具体化が開始された。在宅緩和医療支援のための専属ナースを配置することにより、緩和ケア病棟からだけでなく一般病棟から在宅への移行が推進され、このシステムを県内地域がん診療連携拠点病院へ普遍化する活動に結びついた。在宅移行後の受け入れる側の在宅医の整備については、在宅完結型（分担：大岩）、在宅非完結型（支援病床を必要とする型、分担：沖田）らを中心に問題点の洗い出しのための研究調査が進行中である。在宅医の底辺を拡大する方策も重要であり、大岩・沖田（分担）らにより千葉県在宅医懇話会が組織化され、活動が開始された。メイリングリストによる相談受付、専門医（スーパーバイザー）へのアドバイス伺い、多診療科在宅医による在宅併診、などの体制が整備され、活動が開始された。在宅非完結型事例のための緩和医療の保障のある後方支援病床の確保が必要であり、緩和ケア病床の変革も今後は必要であることが示唆された。

在宅医の早期参加には抗がん剤治療への介入が重要であり奈良林（分担）の研究が進行しているが、在宅医への治療の委譲ではなく、併診（治療のフォローや合併症対策）のかたちでの介入が現実的であること、また一方、適応を逸脱して請われるままに治療を継続する病院医師側にも問題があることが推測された。

その他の研究として、木下（分担）による在宅支援診療所関連の活動（特に麻薬製剤の使用状況）の調査が行われ、診療所支援の方策が検討された。さらに、大木・河野（分担）による看護・介護部門の業務改善の研究、渡邊・藤田（分担）による広報面の向上活動も継続された。

2. 前年度の研究成果

主任研究者および各分担研究者により、研究方針がたてられ、研究が開始された。がん診療施設側（主任：渡辺）からの在宅移行のシステム改善の必要性が確認され、今年度の改革に結びついた。在宅医側は、大岩・沖田らにより、受け入れる側の問題点の洗い出しに関する研究計画が立案され、研究が開始された。また、在宅医のネットワーク構築も重要であり、千葉県在宅医懇話会が活動を開始した。

3. 研究成果の意義、および今後の発展

千葉市においては緩和医療期患者の在宅移行のシステムは順調に進化しており、今後、県内の各拠点病院を中心とした地域的システムの構築に千葉市モデ

ルを普遍化できるよう活動を計画する。また、千葉市内においてはさらに在宅緩和医療の良質化を企図していくが、そのための在宅医を支援するシステムの向上が望まれ、在宅医だけではなく、訪問看護ステーション・介護支援部門・調剤薬局などへの教育的指導を組み込んだシステム造りが必要と考えている。

4. 倫理面への配慮

本研究の内容は、システムに関しての実情の調査から始まり、最終的には新たなシステムの構築を目的としており、倫理面における逸脱の危惧は必要ないものと考えている。研究の途上において一部においては事例検討的研究がなされる可能性があるが、個人を特定できないことに十分な配慮を持って遂行する。

5. 発表論文集

- 1) 渡辺 敏：がん診療専門施設からの在宅緩和ケア推進の試み. 日本臨床外科学会雑誌 68 (増刊号) : 535, 2007
- 2) 岡田順子, 大岩孝司ほか：在宅ホスピスケアにおける予防的グリーフケアの可能性-遺族インタビューからの要因分析の試み-. 日本緩和医療学会総会プログラム・講演抄録集. 12 (総会号) : 164, 2007
- 3) 奥村ひとみ, 大岩孝司ほか：在宅緩和ケアの継続を可能にするための生活支援-独居がん患者3名の看取りから-. 同 : 143, 2007
- 4) 奈良林至ほか：大学病院における緩和ケアチームの現状と診療上の問題点. 同 : 163, 2007
- 5) 小勝未歩, 奈良林至ほか：緩和ケアチームにおける管理栄養士の役割-2年間の活動を振り返って. 同 : 242, 2007
- 6) 奈良林至：もっと知りたい化学療法による症状緩和 緩和的化学療法とは何か. 緩和ケア. 17:6-12, 2007
- 7) 藤田敦子：QOLを重視した医療への変換を. ホスピスケアと在宅ケア : 15(1) 4-10, 2007
- 8) 藤田敦子：ホスピス市民活動の最前線から. ホスピスケアと在宅ケア : 15(2) 44, 2007
- 9) 木下寛也：コンサルテーション・リエゾン精神医療の実践 緩和医療とコンサルテーション・リエゾン精神医療. 臨床精神医学 : (36)737-742, 2007
- 10) 槌田洋子, 木村秀幸ほか：がん診療連携拠点病院としてのがん相談の現状と課題. 死の臨床 : 30(2)260, 2007

6. 研究組織

①研究者名	②分担する研究項目	③最終卒業学校・卒業年次・学位及び専攻科目	④所属機関及び現在の専門(研究実施場所)	⑤所属機関における職名
渡辺 敏	在宅医の早期参加による在宅緩和医療推進に関する研究(研究統括)	北海道大学.昭50, 医博.緩和医療学	千葉県がんセンター 緩和医療科	部長
大岩 孝司	同上(分担研究) (在宅医療研究・実践)	千葉大学. 昭47, 緩和医療学 呼吸器外科学	さくさべ坂通り診療所. 在宅緩和ケア	理事長
木下 寛也	同上(分担研究) (精神腫瘍学的研究)	広島大学. 昭59, 医博. 精神腫瘍学	国立がんセンター東病院緩和医療科. 精神科医師	部長
渡邊 義郎	同上(分担研究) (行政部分担当)	千葉大学. 昭44 脳神経外科学 公衆衛生学	千葉県市川保健福祉センター(市川保健所) 医師	センター長
関谷 雄一	同上(分担研究) (病棟側緩和医療の研究)	千葉大学. 昭59 緩和医療学 放射線治療学	聖隷佐倉市民病院緩和医療科 緩和ケア病棟医師	部長
奈良林 至	同上(分担研究) (在宅化学療法担当)	山形大学大学院, 平1, 医博. 腫瘍内科学 緩和医療学	埼玉医科大学臨床腫瘍科 固形がんの化学療法 がん緩和医療	助教授
沖田 伸也	同上(分担研究) (在宅医療研究・実践)	千葉大学. 昭43 一般外科学.在宅医療	クリニック“あしたば”	在宅担当医師
柴田 岳三	同上(分担研究) (病棟側緩和医療の研究)	北海道大学. 昭51, 医博. 消化器外科学 緩和医療学	カレスアライアンス 日鋼記念病院 緩和ケア病棟医師	緩和ケア科科長
木村 秀幸	同上(分担研究) (病棟側緩和医療の研究)	岡山大学. 昭47, 医博. 消化器外科学 緩和医療学	岡山済生会病院 外科. 緩和医療科	副院長
大木 信子	同上(分担研究) (訪問看護研究・実践)	千葉県立保健婦助産 婦専門学院 昭50, 保健師	匝瑳市民病院 看護師	看護部長 地域ケア部長
河野 秀一	同上(分担研究) (介護支援研究・実践)	淑徳大学社会学部 平8, 社会福祉学	渋谷区医師会渋谷区 ひがし健康プラザ地 域包括支援センター	介護支援専門 員
藤田 敦子	同上(分担研究) (NPO活動)	放送大学教養学部 平成17年卒 生活と福祉	NPO法人千葉・在宅 ケア市民ネットワー クピュア	代表

